

交流拠点整備に向けた社会実験実施結果について

1 実施期間

令和5年7月12日（水）から16日（日）まで 各日 午前10時から午後4時まで

2 実施場所

秦野市農業組合本町支所2階多目的ホール、JAさわやか館及び市有地

3 参加人数

延べ275名

4 協力事業者等

秦野市農業協同組合（会場提供・子育て事業）、秦野ガス（ヨガ講座）、秦野ノルディック&ポールウォーキングクラブ（脳トレ講座）、学生団体E4（学生の居場所づくり）、小田急電鉄株式会社（子育て事業）、秦野曾屋高校軽音楽部（演奏）、秦野高校吹奏楽部OB（演奏）デザイン会社マイクロデベロップメント（ワークショップ）、その他（はだのこども館（子育て事業））



脳トレ



室内遊び場



農協ママメート



農協ママメート
とヨガ



吹奏楽の演奏



曾屋高校
軽音部



椅子づくり
ワークショップ



小田急
ワークショップ

5 実施の目的及び主な実施結果について

多世代交流の場づくり(屋内)

目的	実施内容	主な実施結果
<p>県道705号沿道の交流拠点に必要な機能の検証</p>	<p>多様な属性、幅広い世代の来場者に求められる空間を設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの屋内遊び場 ・幼児体操 ・ヨガ教室 ・市民講座 ・ワークショップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の属性によって利用する時間帯が異なる。 (未就園児を午前中に遊ばせる場所がないため、こどもの屋内遊び場には高いニーズがある) ・事前調整の際には駐車場が有料であることが課題であったが、鉄道やバスなどの公共交通機関の利用や有料駐車場の利用が多くみられた。(平塚市から参加される方もいた) ・空間を完全に仕切らないことで、普段は関わるのが少ない属性の人たちの交流が生まれるきっかけとなった。 農協ママメート×ヨガ講座 軽音部×椅子づくりワークショップ <p>→駅前交流拠点として、地区外の市民も集まるポテンシャルがある。また、拠点の整備に当たっては、利用者の属性に合わせた時間帯ごとの施設の使い方や、図書館など複数の属性の利用が期待できる施設の検討、異なる属性同士の交流を促す空間づくりなどを研究する必要がある。</p>

滞留空間の創出(屋外)

目的	実施内容	主な実施結果
<p>将来的な県道705号沿道の屋外空間の活用策の検証</p>	<p>人工芝やベンチ、テーブル等の設置による、休憩・会話、飲食等のできる空間の創出 (土日に音楽演奏)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開催期間は熱中症の危険性が高まっていたこともあり、屋外での利用は少なかったが、地元の自治会や商店からは普段と異なる空間の使い方に興味を持つ声が聞かれた。 (3日目以降から利用者あり) ・屋内外に関わらず文化活動に関わる学生は発表の場を強く求めている。 ・生演奏が始まると、足を止める歩行者や演奏を聴きにくる近隣住民がいた。 <p>→県道705号沿道においては、地域や学生などが目的をもって利用できる空間のニーズがあると考えられる。</p>

6 アンケート調査における主な結果について

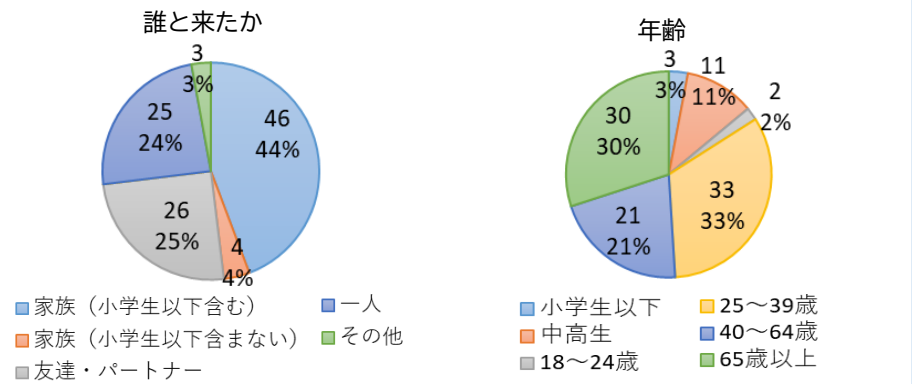
全回収数:105件

※無回答や複数回答により設問毎に回答数が異なります。

■属性

・子ども向けコンテンツを多く用意したこともあり、25～39歳の子育て世代、家族での来訪が多くみられた。

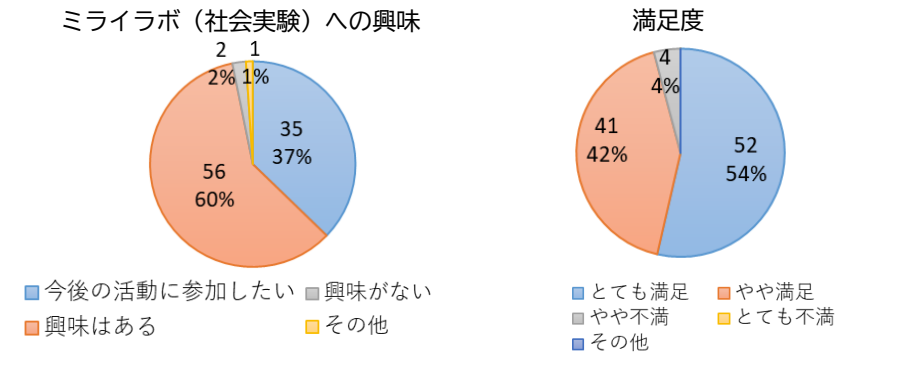
➡未就学児のいる家族や活動的な65歳以上の参加が多く、日常的に外出できる機会や場所が求められている。



■来訪者の興味・満足度

・ミライラボ（社会実験）全体としての評価は高く、今後の活動に対しても前向きな意見が多くみられた。

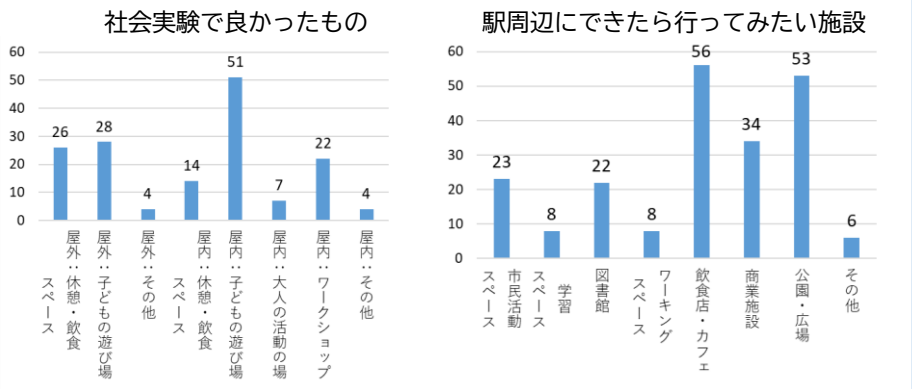
➡今後のミライラボ（社会実験）開催に当たっては、市民等がさらに参画できる場や機会を作っていくことが求められる。



■求められる機能や施設

・屋内外、共に子どもの遊び場への評価が高い。
・飲食店・カフェ、商業施設、公園・広場へのニーズが高かった。

➡飲食等の商業機能、子ども向け機能を有した複合施設や遊び場や交流の場となる広場等の整備が求められている。



■課題

・秦野駅北口周辺では、安全に通行ができるという意見が多い一方、子どもと過ごす場所や居心地の良い場所がないという意見が多くみられた。

➡駅周辺に、滞留したくなる居心地の良い場所や空間がないことが課題である。

